

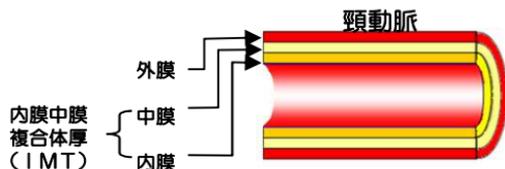
頸部超音波検査

頸部超音波は、ゼリーを塗ったプローブ（探触子）を首にあて検査します。探触子から出ている超音波が、頸動脈に届き、反射した波を画像化して検査しています。まったくの無害の検査で、食事の影響もなく、身体に負担もかかりません。



頸部超音波検査は、動脈の壁の厚さや狭さとその程度など、頸動脈の状態を調べる検査です。動脈硬化の有無や程度の評価、頸動脈病変の評価に用います。

頸動脈壁は外膜、中膜、内膜の3層からなっています。



プラークの画像例



《 所見例と解説 》

所見	解説
内膜中膜複合体 総頸動脈肥厚 動脈洞肥厚 内頸動脈肥厚	肥厚とは 動脈硬化により血管の内壁が厚くなること。 血液の通り道が細くなるので流れが悪くなります。 内膜中膜複合体厚（IMT）とは 超音波では内膜と中膜を分離できないため、合わせてIMTとして計測しています。動脈硬化の進行程度を示唆します。
プラーク病変 総頸動脈プラーク 動脈洞プラーク 内頸動脈プラーク	プラークとは 血管内腔に限局的に出っ張った、IMTを含めて1.1mm以上になるふくらみです。（正常は1.0mm以下） プラークでも血液の通り道が細くなるので流れが悪くなります。また、プラークの破綻が脳梗塞などをひきおこすおそれがあります。
形状異常 総頸動脈形状異常	総頸動脈にみられる血管の拡張、蛇行など形状の異常です。
その他異常 甲状腺所見 その他所見	頸部には血管以外に甲状腺やリンパ節などがあり、頸動脈と同時に観察できます。その際、それぞれに病変などがみえます。